

「地域創造」コースによる地域の活性化に挑む学校

地域

- ・ 若者の大都市圏への人口流出が進行
- ・ 将来的に地域の担い手不足や経済活動の停滞が予想

本研究より地域と学校を結びつける

- ・ 地域のプロフェッショナルとの協働プロジェクトを実践
- ・ 地域を学びの場として捉え、地域に開かれ必要とされる学校づくり
- ・ 地域の魅力を発見し、地域への誇りを持つ

学校

- ・ 多くの生徒が県外へ進学後、地域に戻ってこない
- ・ 中学まで行われていた地域との学びが途切れ、地域との関係性が希薄

<研究開発の実施体制>

<教員>

- ・ 持続的な地域について様々なプロジェクト型学習やESDの観点から教科横断型授業の実践
- ・ 担当教員は地域人材や企業と協働し、生徒のプロジェクト型学習を実践するファシリテーターとして位置づけ
- ・ チームとして機能させるためのチームビルドを担当

<コンソーシアム>

- ・ 地域の異業種交流会のメンバーを中心に、様々な業種のリーダーから構成。
- ・ カリキュラム構築を行うと共に、プロジェクトの実践・評価者として参画
- ・ 学校と地域社会の橋渡しを行う役割を果たし、生徒の活動を支援

<T・Y-Labo>

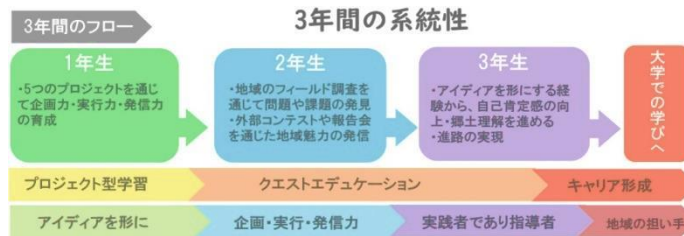
- ・ 校内の教員研修組織として、プロジェクトの実施や成果を評価
- ・ プロジェクトの実践やチーム作りについて研修を深め、次の実践者を育成

< 目標と成果 > 目標

3年間の系統的カリキュラム

地域創造コースがスタートし、生徒や地域の実態に合わせた高校3年間の系統的なカリキュラムを構築する。

成果



課題

①系統的なカリキュラムの検証

次年度は、高校2年生としてクエストエデュケーションを実施するため、1年間の地域魅力発信の取り組みから、高校3年生に向けて系統的に学びをどう深めるかが大きな課題です。

自分たちの地域内への発信はもちろん、外部の視点から地域での取り組みの評価を受けることを学びの系統性に組み込みたいと考えています。

1年生プロジェクト型学習の系統性を検証

コース初年度として実際に生徒を迎え学校設定科目の地域創造概論・演習で実施するプロジェクト型を実践し、系統性の検証を行う。



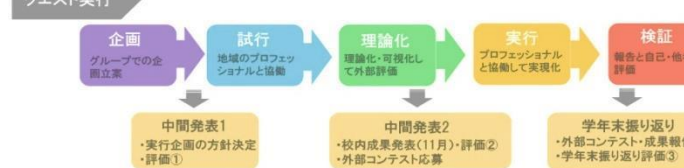
②地域魅力化の取り組み成果の発表と共有

次年度は、外部の大学や団体のコンテストや報告会を通じて、本校の取り組みの評価をうける機会を設定したいと考えています。地域魅力化はその地域限定の魅力や取り組みだけでなく、魅力化の方法を検証することに意義があると考えています。生徒達の実践を様々な地域でも取り入れることができる魅力化の実践例として、フォーマット化を進めていきたいと考えています。

クエストエデュケーション先行実践

来年度より開始する2先生からのクエストエデュケーションに向けて、これまで選考実践してきた事例から、学校設定科目としてカリキュラム化を進める。

2~3年次のクエストエデュケーションの系統性



③教科横断的な取り組みやプロジェクト実施者の育成

プロジェクト型学習において教科横断型の取り組みでの協働体制や教職員の共通理解はこれからも大きな課題です。本研究3年目として、こうした教科横断の協働実践を積み重ねていき、学校全体での共通実践に移行できるよう体制の整備を進めていきたいと考えています。